

2学年通信

新宮町立新宮東中学校
令和7年12月15日 第75号
文責:江頭 俊輔

[引き締めダービー！]

11月と12月の学年目標は「ひきしめ」です。2学期の終わりのこの時期に、気持ちを引き締め、清々しい気持ちで「年を越したい」「3学期を迎える」という代議員の気持ちが伝わってくる目標です。学校では、気持ちを引き締めるために、学級対抗で「引き締めダービー」に取り組んでいます。引き締めダービーでは、授業2分前に着席して、前時の復習をしたり、自分のロッカーを片付けたりすることを点数化して、学級で声をかけ合いながら、学校生活を日常より意識して行動するようにしています。

この引き締めダービーの中でも最も難しいのが、朝8時18分に全員が着席し、準備をし、chromebookを開いてキュビナ(Qubena)の問題に挑戦するという「朝の時間」に焦点を当てた項目です。ポイントは「全員」です。2学年でも「1分」「2分」の朝の遅刻が目立つようになってきました。「時間を守る」ことは、社会人として生きていく上でとても大切なことです。決められた時間までに決められた場所にいるということを自体が相手を思いやる行動であり、人権的な面から考えてもとても大切な行動です。

そうは言うものの、8時18分に全員が学級にそろい、朝活動の準備を始めてしまうことができる状況はとても少なくなっています。

「習慣」になってしまふとなかなか行動を改めることは難しいです。朝のほんのちょっとの努力ですが、「社会で生きる」ためには、とても重要です。「みんなで頑張ろう！」というこの時期に習慣を変えてみませんか？

(江頭は12月10日に2組で8時18分に全員がそろう状況に遭遇しました。小さいことですが「奇跡」が起きた勢いでみんなで喜んだのが印象的です。みなさんも小さい「奇跡」を全員の力で起こしてみませんか？)

[奇跡ってなんだ！]



「奇跡」と聞くと、少し大きなことと思いがちですが、考え方によっては上記のような、「いつもはできないこと」も奇跡として考えられます。今回は有名な物理学者のアインシュタインの名言を学びに学びましょう。アインシュタインの功績で最も有名なものは、「相対性理論」です。時間と空間は絶対的なものではなく、観測者の速さによって変化するという理論です。(詳しく知りたい人は理科の古川先生に聞いてみましょう！)さて、アインシュタインが残している「奇跡」についての名言は、

人生には、2つの道しかない。1つは、奇跡などまったく存在しないかのように生きること。

もう1つは、すべてが奇跡であるかのように生きることだ。

私はこの言葉を見て、「アインシュタインは、とてもロマンチックな人だったんだな」という感想をもちました。アインシュタインのイメージが変わる名言だと思いますか？アインシュタインは2つの人生の道を提案しています。みなさんは「奇跡」をどのように捉えますか？(近くの人と話してみましょう！)

(言うまでもなく、分かると思いますが、)江頭は後者(すべてが奇跡であるかのように生きる)派です。大小あると思いますが、素敵なことは「奇跡だな～」と思います。「奇跡だな～」と思うと心が楽になります。「これできたら、奇跡だな～」と思うと、楽しくなります。みなさんはどちらですか？

